

大腸CT検査を始めました



内視鏡部長

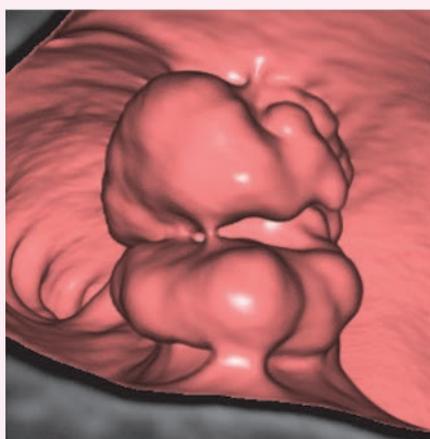
田近 正洋

大腸がんは、日本人において最も罹患率の高いがんです。日本では早期発見に向け、大腸がん検診（便潜血検査）が行われています。検査で陽性の場合には、精密検査として大腸内視鏡検査が推奨されますが、精密検査への受診率が70%弱と低いことが我が国の課題です。その理由の一つとして内視鏡検査は前処置が大変、検査が痛い、つらいなど検査への不安があげられます。そこで登場したのが大腸CT検査です。

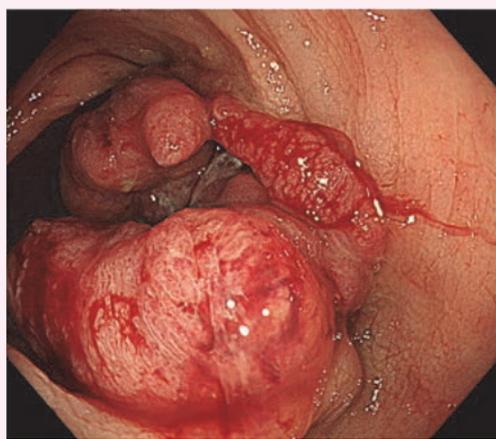
大腸CT検査は、画像診断装置や解析技術の進歩により、CT検査により得られた画像情報から大腸内視鏡検査や注腸造影検査に類似した画像を作ることができ、大腸がんやポリープ、憩室などの大腸疾患を診断することが可能となりました。その精度も6mm以上の隆起性病変であれば大腸内視鏡検査に劣らないと言われています。

大腸CT検査の方法ですが、もちろん前処置は必要です。しかし、大腸内視鏡検査では3リットルほどの下剤や水分を摂る必要がありますが、大腸CT検査ではタギング法が導入され、前日の3食の検査食と一緒に少量のバリウム製剤を内服することで、便と病変を識別することが可能となり、少量の下剤の内服で検査が可能になりました。検査当日は、肛門から細いチューブを挿入し、炭酸ガスを注入して大腸を十分に膨らませて、仰向けと腹這いの2つの体位でCTの撮影を行い終了です。検査時間は15分程度です。

このように大腸CT検査は、大腸内視鏡検査と比較して前処置も簡単で、検査も短時間で苦痛も少ない検査です。もちろん大腸CT検査で病変が発見された場合には、大腸内視鏡検査が必要となりますが、まずは病変があるかないかを確認することが大切です。「大腸内視鏡検査はちょっと」と抵抗のある方は是非、大腸CT検査を受けてみて下さい。



大腸CT画像：大腸がんが疑われる

大腸内視鏡画像で確認した大腸癌
：大腸CT画像と類似している

LAVENDER RING MAKE & PHOTOS WITH SMAILESが 愛知県がんセンターにやってきました!

「LAVENDER RING MAKE & PHOTOS WITH SMAILESに参加して元気もらったので、ぜひ愛知県がんセンターでも開催して欲しい」と患者さんから相談されて5年の歳月が経ちました。そして、ようやく2022年7月16日に愛知県がんセンターでラベンダーの花を咲かせることができました。

LAVENDER RINGとは

資生堂のライフオリティビューティーセンター、その他電通など企業の垣根を超えて有志がそれぞれの特技を生かしながら協力して、サバイバーの心と身体をメイクアップして生き生きした姿を写真におさめるプロジェクト。「化粧のちから」によりその人らしさを取り戻すことを通じてサバイバーの社会復帰を支援している (<https://lavender-ring.com/>)。

スタッフとしてラベンダーリングに協力して

4年前ラベンダーリングの写真展を当院アトリウムで行いました。がん治療と闘っている患者さんが、なぜこれほどまでに自然の笑顔で素敵な写真になるのだろうと不思議でした。今回、撮影現場では、患者さんの勇気や笑顔を最大限引き出すための演出とプロの仕事っぷりを肌で感じました。われわれ医療者は、医療者なりの方法で患者さんの治療や支援をしています。このように全く違った方法で患者さんに勇気と力を与える方法があるのだと、改めて感じることの出来たイベントでした。

頭頸部外科部 歯科衛生士 長縄 弥生



「ポスター展示」

7月19日から30日までの2週間、2階外来玄関入り口でポスター展示をいたしました。いつもの外来受付の雰囲気が変わり、大変多くの反響をいただきました。

展示していたポスターは360度カメラで撮影したものを中日新聞社のホームページで見ることができます (<https://www.chunichi.co.jp/article/527525>)。



写真はすべてご本人の承諾を得ています

「入院前の患者問診を開始しました」

入院前の患者さん全員に自宅での様子や、地域との連携状況などの基本情報の問診を開始しました。従来は、退院が見えてきた頃に地域のみなさまとのかかわりを聴取することが多い状況でした。入院前に確認を行うことで、入院時から院内の医療者が自宅での生活を見据えた介入ができるようにしていきたいと考えています。この取り組みをきっかけに、いずれは入院前から介入が可能になる体制を目指していきます。



高校生向け基礎実験体験講座を3年ぶりに開催！

8月5日に、高校生を対象とし、がんに関連するタンパク質の構造を人工知能（AI）を用いて分析する体験講座を開催しました。コロナ禍のため3年ぶりの開催です。

愛知県内外の高校生14名は、パソコンから東京大学のスーパーコンピューターSHIROKANEにアクセスし、AlfaFoldというAIプログラムを使ってEGFRというタンパク質の構造を予測しました。

スーパーコンピューターへのアクセス方法、EGFRが細胞のがん化にどのように関与しているか、EGFRをターゲットとした薬についてなどの研究員の講義に真剣に耳を傾け、実習に取り組む姿が印象的でした。



● 参加者の声 ●

「コマンドによるコンピューターの操作が初めてで新鮮だった。」

「がんになるまでの細かい説明が分かりやすかった」

「たった少しの配列の違いで薬が効くか効かないかが決まるという事実がとても印象に残っています。いざその配列も見てみるとその違いがとてもわずかなもので面白かったです。」

「愛知県がん診療連携協議会」を開催しました

愛知県がんセンターは、愛知県で唯一の都道府県がん診療連携拠点病院として、県内で中心的役割を果たし、専門的ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療の連携協力体制の整備やがんに関する相談支援情報の提供を担っており、国の主催する「第15回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会」に出席しました。

それに伴い、名古屋大学医学部附属病院始め愛知県内のがん診療連携拠点病院等である28病院で構成した「愛知県がん診療連携協議会」を、令和4年8月1日（月）に、当センターを議長としてWeb会議で開催しました。

会議では、国の連絡協議会の結果報告や、県協議会傘下の6つの部会の活動報告、県からのがん診療連携拠点病院の指定等についての報告などがあり情報交換を行いました。

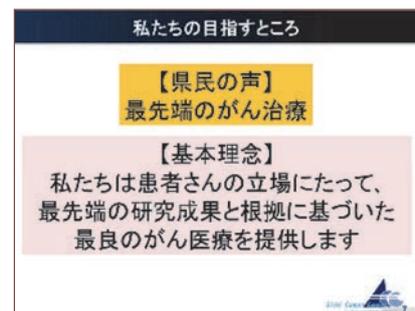


第17回中部地区がん医療連携学術講演会を開催しました

7月16日（土）に近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、第17回中部地区がん医療連携学術講演会をオンラインで開催しました。100人もの先生方に、近隣からだけでなく遠方からもご参加いただき、ありがとうございました。

当院ゲノム医療センターからの案内に加え、病院長から就任挨拶及び造血管腫瘍に対する治療についての話題提供があり、活発な意見交換も行われ、有意義な会となりました。

次回の第18回は、2月25日（土）に開催いたします。



とろく医探訪

はらたクリニック 内科・消化器科 院長:原田 雅生 先生



当院は地下鉄本山駅近くに位置するクリニックです。常日頃より愛知県がんセンターの皆様方と連携させていただき、診療を行っております。

消化器内科を専門とし、診察の他、胃・大腸内視鏡検査、腹部エコー検査を行っております。患者様にとって癌が見つかることは不幸なことです。できるだけ早期の段階で診断することができれば適切な治療により治すことができますので、常に正確な検査・診断を心がけております。

検査の結果、癌の診断に至った場合、がんセンターをはじめとした高次施設で詳しい精密検査や治療を受けていただくこととなりますが、がんセンターでは、癌かどうかの診断が難しく確定診断に至っていない患者様や、良性の病気の患者様でも診ていただけるので、いつも頼りにさせていただいております。

またがんセンターで治療を受けられた後の経過観察も、担当の先生方と連絡を取り合い協力して行わせていただいております。患者様は予約日以外にがんセンターを受診することを躊躇する方もみえますので、必要と判断した場合は当院よりがんセンターに連絡を取り受診していただくこともあります。その際の受診もスムーズで、患者様にも満足していただいております。

今後がんセンターの皆様と協力し、癌で亡くなる方を減らし、地域医療に貢献することが自分の役割だと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【医療機関情報】



診療科目 / 内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科

電話 / 052-751-2525

所在地 / 〒464-0821 愛知県名古屋市千種区末盛通 5-3
メディカルビル 4階

ホームページ / <https://www.harata-clinic.com/>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30-12:30	○	○	○	/	○	○	/
12:30-13:30	★	★	★	/	★	/	/
16:00-19:00	○	○	○	/	○	/	/

★:予約検査 休診日:木曜日、土曜午後、日曜日祝日



最寄バス停:名古屋市営バス 城山バス停留所

最寄駅:地下鉄名城線・東山線「本山」駅 1番出口より徒歩1分

駐車場:GS パーク本山(三井住友銀行裏)、マックスバリュ第一駐車場
マックスバリュ第二駐車場 ※こちら3カ所は 300円まで負担します

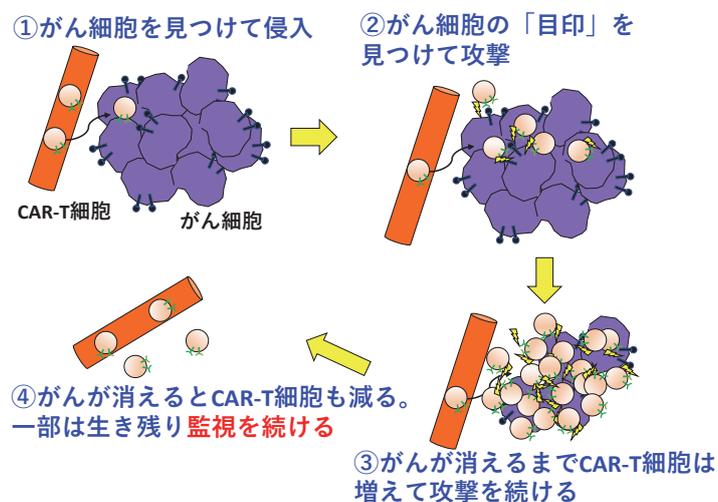
編集後記:第25回(7年目突入!!)は、名古屋市千種区本山駅すぐ傍の、はらたクリニック内科・消化器内科、原田雅生先生です。風邪や生活習慣病から、胃や大腸、肝臓、膵臓等が原因の、幅広い「おなかの痛み」等の症状に対し、超音波や内視鏡検査を用いて診断、がんの早期発見にも力を入れてみえます。「全ては患者様のために」をクリニックの行動指針に掲げ、ホームページや掲示物から、また大腸内視鏡検査を受ける患者さん専用のトイレなど、細やかな気配りを感じます。今後ともよろしくお願いいたします。Y,SANO

免疫でがんを治す



腫瘍免疫応答研究分野 分野長 籠谷 勇紀

わたしたちの体の中の免疫細胞を使ってがんを治療する「がん免疫療法」の開発が世界的に進んでいます。「免疫」は元々ウイルスや細菌など、外からの侵入に対して体を守る仕組みですが、この力ががんの治療にも応用されています。2018年にノーベル医学・生理学賞を受賞した京都大学の本庶先生が発見された、免疫チェックポイント分子PD1を抑える薬が有名ですが、この他にも、免疫細胞を体の外でがんを攻撃できるように加工して、細胞そのものを薬として使う新しい治療法が登場してきました。キメラ抗原受容体という人工の分子をT細胞という免疫細胞に組み込むことで作る、CAR-T(カー・ティー)細胞療法という治療が、2019年から一部の



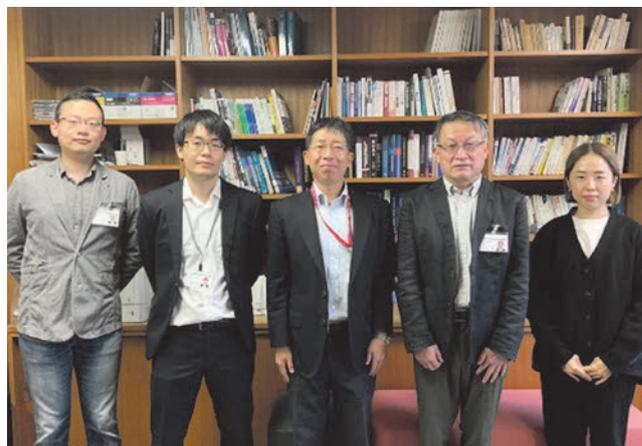
の白血病や悪性リンパ腫という血液がんの患者さんに対して用いられておりますが、今年にはさらに、多発性骨髄腫という治療が難しい血液のがんに対しても保険適用が承認されました(今のところごく限られた病院で実施されており、がんセンターでは現在この治療は行えません)。

私たちの研究室では、この治療法をさらに進化させて、より幅広いがん治療に対して使えるよう基礎研究を進めております。しかし、やはりがんは早期発見・早期治療が肝心です。免疫の力を使ってがんを超早期で予防する方法を開発することが私たちの研究室のゴールです。

図. CAR-T細胞による治療のイメージ。自身の血液中のT細胞から体外で加工して作り、注射で体内に戻します。原理的には1回の治療でがんが完全に消えるまで「生きた薬」として増え続けますが、途中でうまく増えなくなってしまうこともあります。

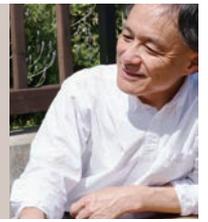
システム解析学分野の紹介

私たちの分野は2019年2月からスタートしたデータ科学を専門とする分野です。がん細胞から得られたゲノムデータなどの様々な生体ビッグデータを解析する方法の研究を行っています。そして実際のデータ解析を通じて、がん細胞の複雑なシステムに関わる情報を抽出し、得られた知見を個人に最適な予防や治療等に役立てることを目指しています。当分野のモットーは“Data Science for Medicine”です。データ科学の力で医療へ貢献し、一人でも多くの患者さんの役に立てることを目指しています。また研究活動を通じて、生命医科学と情報科学の両方の力を身に着けた人材のインキュベーターとなることも目指しています。



写真：左から、郭 中梁(研究員)、武藤 理(リサーチレジデント)、山口 類(分野長) 鈴木一基(研究補助員)、竹中亜由美(事務員)

精神腫瘍医、がん医療における嘘と秘密を探求



精神腫瘍科部 部長 小森 康永

がんの診断告知が一般化し、余命も知らされるようになってから随分と年月が経ちました。しかし、がん医療において秘密がなくなったわけではありません。医療者が秘密を持たなくなった分、患者さんや家族がそれを肩代わりする必要も出てきました。

例えば、妻が夫とがんの診断を知らされたとしましょう。同居の家族全員に話すのが当然だと思われるかもしれませんが、そうでもありません。小さい子どもにはどう伝えるべきか。伝えたとして子どもには口止めするのか否か。心配性の母親にはいつ言うべきか。友達にはどこまで言うべきか。言うか言わないかによって、周囲との間に明瞭な線引きがなされることになります。

大切な人と一緒にいて、自分にとって最も大切なことを話さずに他のことを話すということはとてもストレスフルなものです。裏切っていると感じる人さえいます。このような秘密を維持するためには、沈黙や嘘という手段が必要になり、それによって疲れ果てる人も多いのです。実は、秘密にならない謎もここに絡んできます。その最たるものは治療効果です。誰にも答えようのない事柄を抱え込むのは、患者や家族だけではなく医療者も同じです。デリケートなコミュニケーションが必要とされるわけです。



薬物療法部の紹介

薬物療法部は、がん薬物療法を専門とする診療部門です。食道・胃・大腸癌といった消化管癌を中心に、頭頸部癌、原発不明癌・肉腫（サルコーマ）、胚細胞腫瘍・腎癌・乳癌・婦人科癌などの幅広い固形腫瘍に対する全身薬物療法や化学放射線療法を行っています。疾患に対する深い知識と経験のみならず、多くの有望な薬剤についての知識や経験の上で適正な治療を行うことが必要となります。また、副作用への対応にも十分配慮し、負担の少ない治療を行うことも心掛けております。さらに、新たな治療法の開発を目指した企業治験・医師主導治験、先進医療、特定臨床研究、他の臨床試験・研究にも積極的に取り組んでいます。



写真：後列左から、能澤一樹（ゲノム医療センターがんゲノム医療室）、児玉紘幸（レジデント）、緒方貴次（医員）、熊西亮介（医員）、中田晃暢（レジデント）、成田有季哉（医長）、
前列左から、若林宗弘（レジデント）、本多和典（医長）、舛石俊樹（医長）、中澤泰子（医員）、室 圭（副院長兼部長）、松原裕樹（医員）、安藤正志（臨床試験部部長兼医長）、門脇重憲（医長）、谷口浩也（医長）

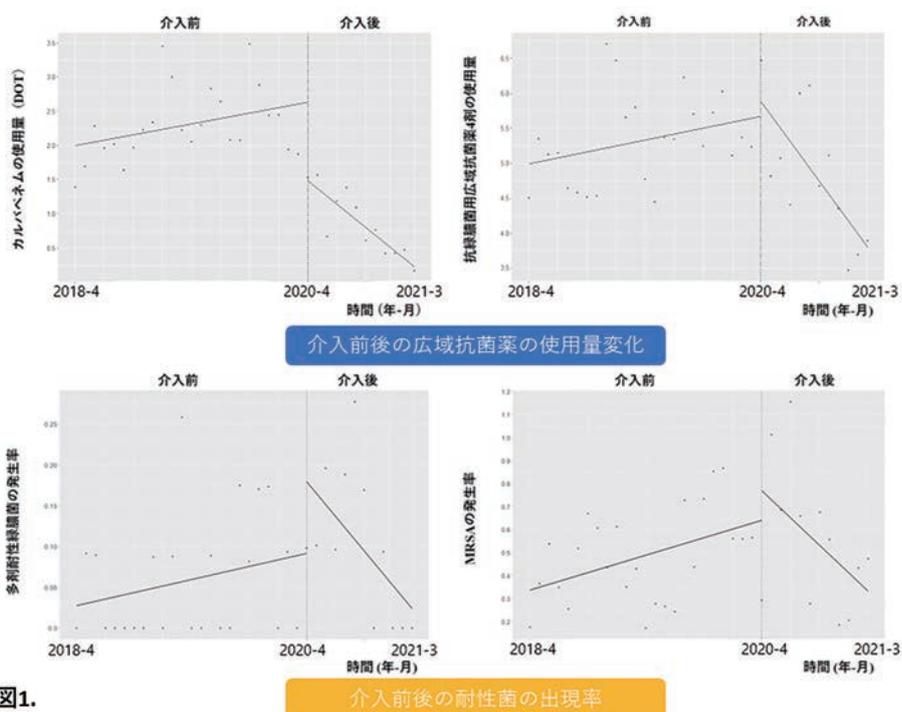
感染症コンサルテーションサービスと 抗菌薬適正使用支援プログラム



感染症内科部 医長 伊東 直哉

近年、抗菌薬耐性（AMR）が世界的な問題となっており、医療機関にとってAMR対策の実施は喫緊の課題となっています。がん患者さんは、基礎疾患の進行中に重篤な感染症を発症し、何度も抗菌薬治療を受けることがよくあります。そのため、がん患者さんに対する抗菌薬の使用量は相当なものとなっています。抗菌薬の過剰使用は、患者さんの正常な細菌叢を乱し、薬剤耐性菌の発生に大きく寄与します。

感染症内科部は2020年4月に設置され、日常業務として感染症コンサルテーションサービスと抗菌薬適正使用支援活動を開始いたしました。2020年から2021年の1年間の活動だけでも、患者さんの予後に悪影響を与えることなく、広域抗菌薬の使用と一部の薬剤耐性菌を減らすことができました(PLoS One. 2022 Jan 25;17(1):e0263095.)。これからも安全ながん診療の構築と患者さんの予後改善につながるよう診療をサポートしていきます。



ひとりひとりが緩和ケアを受けながら治療を続けられるように… ～当院での緩和ケアの実践について～

緩和ケア部 部長 下山 理史

未だ新型コロナウイルスの影響が社会の様々なところに出ています。皆さんも少し気がめいてきているのではないのでしょうか。

暮らしの中で、病気は様々な影響をもたらします。少しでも悪い影響を減らして楽に治療を受けられるようにするのが、医療本来の役割です。しかし、現在の医療は専門分化し本来の苦しみを和らげることが二の次になり、病気の大さの変化や腫瘍マーカーなどの増減、治療薬の効果などに目が向きがちです。そんな中、本来の苦痛を和らげること、暮らしを守ることを専門としているのが緩和ケアです。

当院では、私を含め看護師、精神科医など緩和ケアの専門家が集まり、協力し皆さんの苦痛を和らげられるように取り組んでいます。



緩和ケアセンターのメンバー（最上段左から2番目が下山部長）

医療連携のご案内		寄附のお願い
対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)	詳細はQRコードまたはHP「寄附のお願い」をご覧ください 
電話	052-764-9892 (直通)	
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)	
ホームページ	https://cancer-c.pref.aichi.jp 「医療関係者の方へ」 - 「医療連携」をクリックしてください。	

外来診療担当表

受付時間	午前8時30分から午前11時30分 (都合により診察医の変更あるいは休診の場合があります)				
休診日	土、日、祝日、年末年始				
※(SO)はセカンドオピニオン診療だけの場合に表します。 ※(初)-(初診)・(再)-(再診)・(非)-(非常勤) 2022年10月1日					
診療科目	月	火	水	木	金
総合初診	稲葉	原	室	堀尾	田近
消化器内科	原(初) 田中(初) 奥野 山田 倉石 水野(非)(SO) (第2・4)	原 田近 山田(初) 桑原	原 羽場 田近 山雄(SO)(非)	丹羽(初) 水野(非) 奥野 田中 大西(初)	田近(初) 水野(非) 山田(初) 桑原 田中(SO) 羽場
呼吸器内科	渡辺(初) 山口(再) 堀尾(再)	藤原(初) 山口(再) 渡辺(再) 重松(再)	清水(再)(初) 重松(再) 藤原(初)	山口(初) 堀尾(再) 清水(再) 渡辺(再)	堀尾(初) 山口(再) 藤原(初)
循環器科	山本(非)			山本(非)	
血液・細胞療法	田地(初・再) 柳田(再)	加藤(再)(初・再) 山本(→)(再) 森島(SO)(非) 大野(随時)	田地(再) 齋藤(初・再) 森島(SO)(非) 大野(随時)	齋藤(再) 大野(随時) 山本(→)/籠谷(初)	加藤(再)(再) 柳田(初・再)
薬物療法	安藤(初) 室(初) 舛石(初)	門脇(初) 谷口(初) 本多(初)	室(初) 本多 成田(初) 舛石	谷口(初) 門脇 舛石	安藤(初) 門脇(初) 谷口(初) 成田(初)
頭頸部外科	花井(再) 寺田(第1・3・5)(再) 別府他(初)	鈴木(再) 西川(第1・3・5)(再) 別府(第2・4)(再) 澤部他(初)	花井(初) 澤部(再)	花井/寺田(第2・4)(再) 西川(再) 鈴木他(初) 寺田(第1・3・5)(再)	別府 澤部(第1・3・5)(再) 鈴木(第2・4)(再) 西川他(初)
形成外科	高成/中村 奥村	高成 奥村 丸山 中村	高成 丸山 中村	高成 奥村 丸山 中村	
呼吸器外科	高橋(初)	鈴木 黒田(初)	坂倉(初)	黒田・篠田(初)	鈴木 黒田(初) 坂倉
乳腺科	片岡(再) 小谷/遠藤(初) 澤木(再) 岩田(SO)	岩田(再) 吉村/片岡(初) 服部(再) 能澤(再)	小谷(再) 服部(初) 吉村(再) 岩田(SO)	小谷(再) 岩田(初) 能澤(再) 安藤(再) 澤木(再)	服部(再) 澤木(初) 吉村(再) 岩田(SO) 片岡(再)
消化器外科	松垣 安部 三澤(第2・4週) 伊藤(第1・3・5週)	三澤 木下(初) 奥野(再)	小森(再) 伊藤(再) 清水(再)	夏目 伊藤(再) 大内 安部(初)	佐藤 安部(SO) 浅野(初) 棚野(SO) 藤枝
整形外科・サルコマーセンター外来	濱田(初) 筑紫(初) 吉田(再)(初)	筑紫(初)	吉田(再)(初)		濱田(初) 藤原(初)
脳神経外科	灰本		大野	灰本	大野
泌尿器科	小島(初) 加藤 田中		小島 加藤(初) 北野		北野(初) 加藤 田中(初)
婦人科	森(初)	鈴木(初) 渡邊 小島(初)	安井(初) 小島(初)	鈴木(初)/森 第1・3・5週 安井(初)/森(初) 第2・4週	渡邊(初)
放射線診断科	稲葉(初) 村田	長谷川(初)	稲葉(初) 山浦		稲葉 加藤(再)
放射線治療科	古平(初) 立花(再) 小出(再)	古平(再) 立花(初) 小出(再) 橋本(再)	古平(初) 立花(再) 橋本(初)	古平(再) 小出(初) 橋本(再)	古平(初) 立花(初) 小出(初) 橋本(初)
精神腫瘍科	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)	小森康永(予約のみ)
緩和ケア科・ペインクリニック	下山(午後)	下山(午前)	下山(午後) 木村(午後)(非)	下山(午前)	下山(午後) 長谷川(非)
遺伝カウンセリング	井本	井本	井本	井本	井本
がんゲノム外来	能澤	衣斐	能澤	新津	足立

※現在は、当院受診中の患者さんのみ受け付けております。

糖尿病外来	細川(午後)			細川(午後)	
腎臓内科				担当医(午後)	
皮膚科	森	森	横田(非)	森	
眼科		立川(午前のみ)(非)			立川(午後のみ)
リンパ浮腫		中村(午前)		中村(午前)	

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

★公共交通機関のご案内

- 地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
- 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

★車でのご案内

- 一般道路 本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西
- 高速道路 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分



地下鉄・市バス・JR名鉄・近鉄



愛知県がんセンター

第82号 2022年10月発行

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 TEL052-762-6111(代)

ホームページ：<https://cancer-c.pref.aichi.jp>

編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ



「がんセンターNEWS」に関するご意見・ご感想は mail : kohonews@aichi-cc.jp または fax : 052-764-2963 にてお寄せください。なお、個別の返答は致しかねますので予めご了承ください。